

平成29年度市政懇談会会議録

開催日時：平成29年5月15日（月） 午後7時～午後8時

開催場所：緋の郷円形交流館 多目的ホール

参加者：186人

市側出席者：五十嵐市長、吉田副市長、徳江教育長

福田総務部長、池田企画部長、大澤財政部長、千吉良市民部長、小保方環境部長、
町田健康推進部長、三澤福祉こども部長、横山長寿社会部長、出崎経済部長、
喜楽建設部長、笠原都市計画部長、西川水道局長、小島消防長、
高尾経営企画部長（市民病院）、須永会計管理者、下城議会事務局長、
大澤監査委員事務局長、荻原教育部長

- 1 開 会 司会進行（企画調整課長）
- 2 特別職の紹介・市職員（部長職）の紹介
- 3 市長あいさつ

皆様、こんばんは。本日は、大変お忙しい中、また、夜分にもかかわらず、このように大勢の方にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

この市政懇談会は、年度当初に、本年度、本市が取り組む主な事業についてご説明をさせていただき、また、皆様からご意見やご質問等を受けながら、一緒に元気な伊勢崎を目指していこうという主旨のもと、開催させていただくものです。

限られた時間のため、スクリーンをご覧いただきながら説明をさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

- 4 重点政策の概要
 - (1) 平成29年度重点政策について <市長説明>
 - (2) 質疑応答 <特別職及び全部長職>

※質問及び回答の要旨を掲載しています。

◆3期目を迎えての市長の考えについて

【質問】

五十嵐市長においては、今年1月の市長選で3期目の当選を果たされました。そうした中、住んで良かった伊勢崎を目指して平成29年度の予算を編成されたと思いますが、3期目就任後、約半年が経ち、市長の考えを改めて伺います。

【回答】（市長）

ご質問ありがとうございます。この1月の市長選挙において、図らずも前回に引き続き、無投票という結果をいただき、3期目を担わせていただくことになりましたが、これまでに以上に責任の重さを痛感しているところです。また、これまで以上に皆様のお声を聴かせていただきながら、しっかり市民の皆様のために仕事をさせていただかなければならないという認識を新たにしているところです。

先ほど、冒頭にもお話させていただきましたが、本市にとって一番の目標は、将来に渡

って人口が減ることのない元気であり続ける伊勢崎をつくるということです。

現在、国の法律として、「まち・ひと・しごと創生法」がありますが、「まち」があって、「ひと」がいて、「しごと」ができるということではなく、やはり「しごと」があってこそ「ひと」が集まる、そして、「ひと」が集まるからこそ新しい「まち」ができてくるというものだと思っています。このことから、さらに雇用を拡大していきたいと考えています。先々月のハローワーク伊勢崎の有効求人倍率ですが、1.74倍と非常に高倍率になっており、事業主の皆様にとっては、人手不足ということで、大変ご迷惑をお掛けしている状況です。やはり、「しごと」がないと「ひと」は集まらないと思いますので、このような状態をできる限り緩和していきたいと考えています。そのためには、できるだけ若い人に伊勢崎に住んでいただいたり、来ていただく必要があるかと思えます。また、伊勢崎周辺は、交通の便が良く高崎、前橋、太田、桐生、あるいは埼玉北部といったところからも本市へお越しいただければありがたいと思っています。こうしたことから、元気であり続ける伊勢崎を目指してまいりたいと考えています。

◆子どもの福祉対策について

【質問】

各市町村等で、子どもの福祉対策についていろいろ議論されていることと思えますが、伊勢崎市における取組についての考えをお伺いします。

また、民生委員を務めている関係で、地域の方からご質問をいただき、その件について、市の障害福祉課に問い合わせたところ、非常に丁寧に対応していただきました。市長の目が職員にも行き届いているのを感じました。

【回答】（市長）

子どもの福祉対策の関係については、報道等でも、子どもの貧困問題などが取り上げられていますが、現在、県内では、前橋や太田等で対応策をスタートさせているようですので、本市においては、どういう形をとればどういう効果が出るのかをしっかりと検証していきながら進めたいと考えています。まだ試行錯誤の部分が多い状況ですが、実施するからには、お子さんたちに満足していただけるような制度が必要だと思えますので、これから、さらに研究を進めてまいりたいと考えています。

◆民生委員・児童委員について

【質問】

民生委員の制度ができて、今年で100年だそうです。委員の仕事に係る費用は行政に負担していただけるようですが、あとはほとんどボランティアということで、なかなか民生委員のなり手がいない状況です。私自身も、誰か民生委員として推薦してほしいと言われた時には、候補者を挙げるのに随分苦労しました。実際、全国的に見ても、民生委員のなり手は増えていないようです。民生委員は、お年寄りの訪問から、詐欺に対する啓蒙活動、さらには病院の紹介等、負担がかなり大きいため、なり手がなかなかいないのだと思います。

民生委員を担っている人たちの活動に対しては、本当にありがたいことだと思っています。そのようなことを感じたので、国では厚労省の管轄ですが、市における後押しについてどのようにお考えなのかお伺いします。

【回答】（福祉こども部長）

ご指摘いただきましたように、なり手不足ということが、民生委員に限らず進んでいる状況にあります。

昨年12月に、本市の民生委員・児童委員の改選がありました。本市の場合、1行政区に1人を配置するという基本的な考え方があります。100人程度の行政区の場合でも1人を配置し、さらに大きい地区については、2～3人で配置しています。今回、民生委員を4人増員したいということを県にお願いしたところ、増員はしたものの、残念ながら2人の候補者が見つからず、半年程欠員が続いている状況にあります。民生委員の仕事の内容は年々増しており、事務量も増えていますので、負担も増えているかと思えます。こうした中、県内においては本市だけの取組となりますが、前回の民生委員・児童委員改選時から、協力員制度を設けています。あくまで協力員ですので、資格がある民生委員と全く同様の活動を行うことはできませんが、民生委員の活動の中でも大きな割合を占めている見守り活動等において、協力員を配置し、地域住民や高齢者の見守りということでお手伝いをしていただいています。また、ミニデイサービスについても各地区で行っていただいています。民生委員、区長、ボランティア等だけでは負担が大きく大変だということで、この活動にも協力員を配置し、お手伝いをしていただいています。こうしたことにより、民生委員の負担軽減に取り組んでいるところです。

◆農業委員及び農地利用最適化推進委員について

【質問】

4月の広報紙に、農地利用最適化推進委員と農業委員の募集が掲載されていました。この2つの委員の違いについてお伺いします。

【回答】（経済部長）

平成28年4月1日に、農業委員会等に関する法律の改正法が施行されました。本市については、本年11月19日で今の農業委員の任期が終了するため、11月20日から、法律改正に伴う新たな農業委員会制度が始まります。農業委員は、これまで公選制でしたが、新制度では、市長の任命制に変わり、この新制度に基づく農業委員会の定員が19人ということになります。

農地利用最適化推進委員は、農業委員会が委嘱し、農業委員とともに、農地利用の最適化を推進するための活動をする委員です。

両委員の業務内容には、若干違いがありますが、ともに協力しながら、いずれも農地の適正化利用を進めていくという業務を担う委員です。

◆スマートインターチェンジ周辺の活性化について

【質問】

波志江スマートインターチェンジについてですが、波志江沼周辺との連携がとれていないように感じます。最近では、玉村町に道の駅がありますが、波志江スマートインターチェンジにはかなりの設備投資をしたのですから、周辺をもっと活性化していただきたいと思えます。

【回答】（企画部長）

スマートインターチェンジ周辺についてですが、かつては、整備計画もあり、開発を進めようとしていた時期もありましたが、現在は、計画を中断しており、様子を見ながらいろいろと研究している状況です。スマートインターチェンジ自体の利用については、当初、試験的にオープンした際には、利用者数も多い時期がありました。その後、スマートインターチェンジに関しての制度を国がかなり緩和したこともあり、最近では、各地にスマートインターチェンジが造られるようになってきています。このようなことから、玉村町等でも力を入れて進めているようですので、本市においても、近隣の動向を注視しながら、スマートインターチェンジ周辺の活性化等について検討してまいりたいと考えています。

◆道路整備について

【質問】

下増田地区における清掃センターやサッカー場の計画があったかと思いますが、その場所に関連して、大胡県道の渋滞がひどい状態です。バイパスが整備されるような話が以前からありましたが、実際にはその整備は進んでいません。前橋市と連携して、この辺りの整備を進めていただきたいと思います。

【回答】（都市計画部長）

現在、北関東自動車道の北側の部分において、本市と群馬県及び前橋市の3者で、より良い道路整備の方向性についていろいろと協議を進めているところです。具体的な路線や時期等はまだ定まっておらず、方向性についてご報告できる状況には至っていませんが、いずれにしても、協議を進めながら検討しているところですので、ご理解をいただきたいと思います。

◆市庁舎の移転について

【質問】

耐震工事を終えた市庁舎ですが、ぜひ、移転を考えていただきたいと思っています。

現在の庁舎は、中に入っても非常にわかりづらいため迷ってしまったり、職員の食堂もないような建物です。こうしたことも踏まえ、また、場所の選定も踏まえて、10年先の計画で構いませんので、移転について考えていただきたいと思います。

【回答】（総務部長）

ご質問ありがとうございます。現在の本庁舎は、東館の部分が平成20年に完成し、それまであった本館、北館を繋いだ状況になっています。そのため、市民の皆様からは、わかりづらいというようなことで、ご指摘をいただいているところです。迷われているような市民の方がいらっしゃった場合、できるだけ、職員から積極的にお声掛けし、ご案内させていただくよう対応している状況です。

庁舎については、かなり大規模な改修工事を行いましたので、今のところ、相当の期間は現在の庁舎を使用していきたいと考えています。市の防災拠点ともなる本庁舎ですので、できるだけ、皆様にご不便をお掛けしないような方向で考えていきたいと思っています。

【回答】（市長）

これからますます財政が厳しくなる中、どのように健全な財政を守っていくべきかということで、昨年度、公共施設等総合管理計画を策定しました。庁舎の問題もあろうかと思いますが、説明でも申し上げた名和地区の第一調理場は、築47年経過しており、早急に改修しなければならない状態でした。このままではいつ事故等が起こるかわからないと言われており、もっと早く改修に取り掛かりたかったのですが、なかなか財政面が追いつかず、ようやく本年度着手できることになりました。

県内のある市においては、20年先には現状の公共施設の床面積を40%減らすというような計画を持っているところもあるようですが、それだけ公共施設を維持するには費用が掛かるということなのだと思います。こうした中、市民の皆様のご要望をしっかりと伺いながら進めさせていただくことはもちろんですが、その中でも、やはり優先順位を付けたうえで、必要なものから着手していきたいと考えています。市庁舎についても、この先ずっとこのままということではないと思いますので、できるだけ早くにその時期が迎えられるよう努力してまいりたいと考えています。

◆校務支援員について

【質問】

教育環境の充実ということで、校務支援員を今年6校に配置するということですが、非常に良いことなので、来年度は、ぜひ、全校に配置していただきたいと思います。

【回答】（市長）

本年度は、校務支援員配置のスタートの年ということもあり、まずは、1クラス当たりの児童が多い学校から支援員を配置するというので、教育委員会により選定された6校に配置することになりました。

今後は、各学校の状況等を調べ、できるだけ配置する学校を増やしていきたいと考えています。

その後の対応状況

校務支援員が配置されている学校を担当指導主事が定期的に訪問し、勤務状況について管理職や校務支援員から聞き取りを行うとともに、実際の勤務の様子を確認することにより、校務支援員の活用状況を把握し、成果と課題をまとめ、来年度の配置について検討してまいります。

◇閉会あいさつ（市長）

本日は、大変お忙しい中、また、夜分でお疲れのところ、このように大勢の方にお集まりいただきまして、大変ありがとうございました。

また、皆様から、貴重なご意見やご質問等をいただき、ありがとうございました。

これからも、皆様のご意見をしっかりと伺わせていただきながら、皆様とともに、もっと元気で豊かで安全なまちづくりを進めてまいりたいと思いますので、今後とも、引き続き、皆様のご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

本日は、大変ありがとうございました。